

経営比較分析表（令和4年度決算）

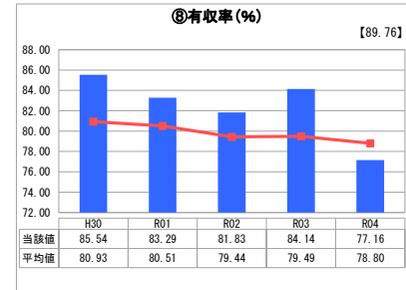
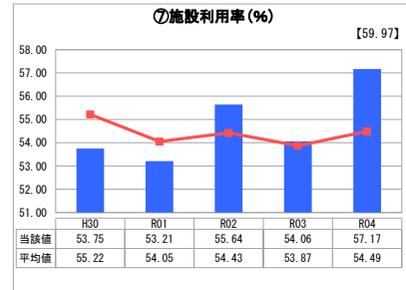
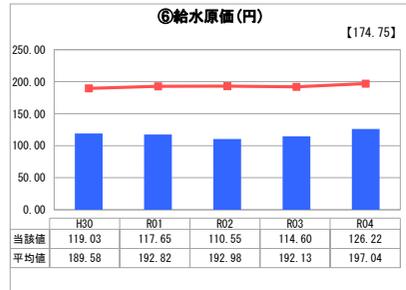
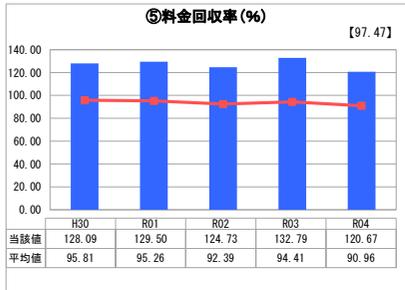
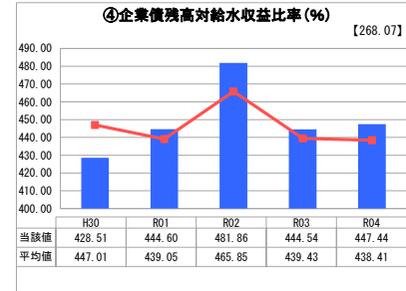
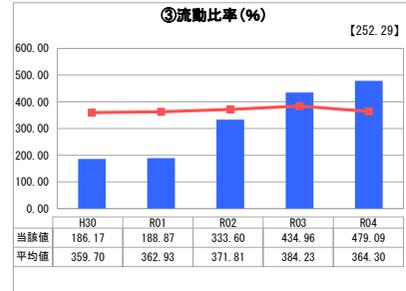
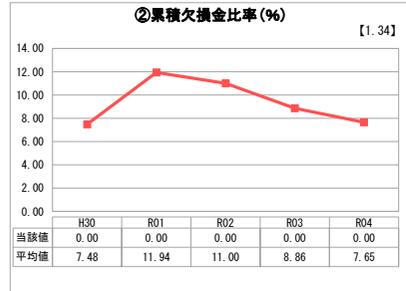
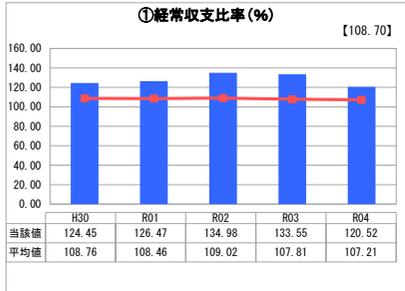
鳥取県 北栄町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり客単料金(円)	
-	67.83	99.32	3.025	

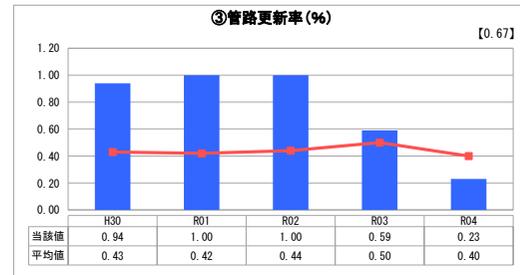
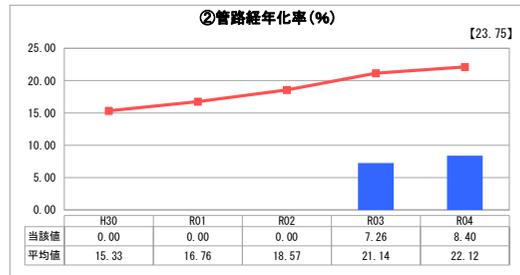
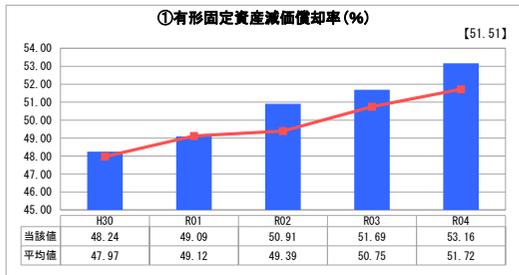
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
14,508	56.94	254.79
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
14,353	56.94	252.07

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本町の水道事業は、「①経常収支比率」と「⑤料金回収率」の数値より、給水収益等で給水に係る費用が十分に随っており、類似団体の平均値と比較しても高い数値であり、健全な経営ができています。また、「③流動比率」で短期的な債務に対する支払能力はある(100%以上)と表示されており、現金については、年々増加傾向にあります。「④企業債残高対給水収益比率」は、近年同水準で推移しており、企業債を一定水準にするよう抑えています。

「⑥給水原価」は、全国平均と類似団体より低い状態にあります。ただし、今後の設備更新状況で流動的であり、投資の効率化・維持管理費等の削減といった部分において検討が必要です。

「⑦施設利用率」は、停滞していた社会活動も徐々に動き始め令和4年度は再び上昇に転じました。R3.12.17に県内でオミクロン株への感染が確認され、R4.9月までにBA.1系統、BA.2系統、BA.5系統と3つの変異株が流行し、感染第6波による外出自粛や感染対策等により使用が一時的に伸びた一方で、大口需要者(学校(プール)、福祉施設、大規模事業所など)の使用も回復してきたことが考えられます。ただし今後は人口減少や節水器具の普及等により、減少に転じていくことを踏まえ、適切な施設規模にしておくため、広域化・共同化を含め、施設の統廃合・ダウンサイジング等の検討を行う必要があります。

「⑧有収率」が低く、施設稼働が収益に反映されていません。経年以上の劣化による量水器の不感や、配水管の老朽化が進行し漏水が多くなっています。アセットマネジメント計画(水道ビジョン)を策定し老朽管の更新を計画的に行います。(令和5年度末完成予定)

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」は、年々増加傾向にあり、資産の老朽化度が顕著に現れています。将来の施設更新に向けて財源確保や施設の計画的な更新を具現化するため、アセットマネジメント計画(水道ビジョン)を策定します。(令和5年度末完成予定)

「③管路更新率」R4は平均値を下回り、耐震化にむけた工事が遅れています。これは山陰道整備に伴う移設工事に集中させたため、R4工事を繰越して対応したことによるものです。

全体総括

本町の水道事業は、現在のところ経営上の問題はなく、健全であると判断しています。しかしながら、人口減少の影響による収益の低下、施設等の老朽化に伴う設備更新及び維持管理費等の増加が見込まれ、厳しい状況が予想されます。安全な水を供給するために、施設の適正規模や広域化検討による収益の確保等、引き続き効率的な経営を目指していきます。